

---

# 春葬

榛

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

春葬

### 【コード】

N9240W

### 【作者名】

榛

### 【あらすじ】

それは、私と桜の秘めごと。

《櫻の樹の下には屍体が埋まってる!》

本棚の奥にあった本を読んだら、こう書いてあった。  
吃驚した、というよりも。

嗚呼、やはりな。そう思ってしまった。

あの、薄く色付いた桃色の花弁。

春になると一斉に咲き出して、枝がしなる程に花をつける。

あれは、屍体の血の色なのだ。

あの美しい桃色は、屍体から出る濃紅の血の色なのだ。

それが時間をかけて樹に取り込まれ、少しずつ花弁に色をつけているのだ。

2

見たことあるだろう？

長年咲き続けた櫻は、何時の間にやら薄い桃色が消え、限りなく白に近い花弁になってしまふ。

年寄りの櫻の樹の花弁の色が薄いのは、屍体の血が足りなくなっただからだ。

地下に息づく長い根の間の屍体から、血が無くなったからだ。

屍体から血が無くなった櫻は、花のつきが悪くなる。

長い間咲き続けた櫻は、少しずつ花が少なくなる。

屍体から養分が吸い取れなくなるからだ。

嗚呼、櫻の樹の下には屍体が埋まっているのだ！

本にも書いてあったとおり、これは確かなことなんだ。信じていいことなんだよ。

根の間に埋められた屍体が古くなると、櫻の樹は美しさを喪う。あの奇蹟のような桃色の花弁も、たわわに咲いて幻想的に散る花たちも。

あれはすべて、屍体のお陰だったのだ。

だから私は、美しさが喪われつつある櫻の樹の根元に、屍体を埋めるのだ。

埋める屍体は、濃紅の血で出来ていなくてはならない。

虫のように濃紅の血が出てこないような屍体は、全くもって論外だ。

いいかい、濃紅の血が出てこなくては話にならないんだよ。

櫻には屍体から出る濃紅の血が必要不可欠なものだから。

あの薄桃色の繊細な花弁が夢のように爛漫と咲き乱れているのも、すべては屍体の恩寵なのだ。

花弁一枚一枚の隅々まで、濃紅の血が染み渡っているのだよ。

だから私は、櫻の樹の根元に屍体を埋めるのだ。

私が埋める屍体は、濃紅の血が出てくるのなら種類を問わない。

だって、贅沢を言ったって仕様がないだろう？

濃紅の血が出る屍体の量は限られているのだから。

犬でも猫でも、牛だって豚だって、たとえ小さな鼠だって無駄にはしない。

櫻の樹の大きさにあわせて、埋める屍体の大きさを変えていくのだ。

必要とあらば、人間だって櫻への贄にする。

人間は水分が多いのだ。それに人間は、栄養が他の動物に比べて富に多い。

櫻の樹も、直ぐに美しい花を再びつけるようになる。

今すぐ近くの櫻のもとへ行って、根元を掘ってみるといい。きつと、櫻に血を吸われた屍体が出てくるだろう。

それは、私が埋めた屍体なのだよ。

私が櫻の為に一生懸命集めてきた、櫻への贄なのだよ。

……いや、櫻の為などではない。

弱った櫻の根元に屍体を埋めるのは。

これは、私自身の為なのだ。

私が、あの櫻が咲くところを見たいのだ。

普通の薄桃色の花卉などではなく、屍体の血のように濃紅の花弁が見たいのだ。

さぞ美しいことだろう。

濃紅の花弁が咲き乱れ、まわりを流れる空気に神秘的な粒子を惜し気もなく撒き散らす。

花が一度に咲く瞬間を。

咲いた次の瞬間に散っていく姿を。

四季のある日本にのみ許された、神の妙技のような奇蹟を。  
鮮血よりも鮮やかで轟惑的な、何よりも紅い櫻の花弁を。  
私がただひたすらに、見たいからなのだ。

《櫻の樹の下には屍体が埋まってる！》

これは全く的外れな妄想ではないのだよ。  
嘘だと思ふなら、櫻の根元を掘って御覧。  
あなたの知っているものが屍体となって、櫻の樹の中を循っ  
ていくかもしれないからだ。

櫻が私の共犯者なのだということは、根元を掘って見ないこと  
には、わからないようになっていくのだからね。

(後書き)

引用(《》内) : 梶井基次郎著「桜の樹の下には」

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n9240w/>

---

春葬

2011年11月1日02時13分発行